第5回 美里町総合計画審議会教育文化部会 議事録

年 月 日	平成27年10月18日(日)
場 所	美里町駅東コミュニティセンター
審議開始時間	午前9時00分
出席委員	羽生安美委員・長岡力男委員・佐々木勝男委員・手島牧世委員・青木英治委員
欠席委員	なし
審議終了時間	午前11時17分

審議開始

- 午前9時00分 開始 -

協議

羽生委員 第5回教育文化部会を始めさせていただきたいと思います。
開会にあたりまして部会長からあいさつ頂きたいと思います。

手島部会長 皆さんおはようございます。
先日は大変長い時間に渡りいろいろ協議いただきありがとうございました。本日もたくさんの意見を皆さんでお話ししながら審議の方進めたいと思います。私たちの教育文化部会は、社会教育、社会体育、文化、学校教育すべて本当に生活のすべてというところだと思いますので、どの意見が必要でどの意見が悪いということは一切ないと思います。ですのでたくさんお話しいただきながら、内容を進めて行きたいと思います。また総合計画の中での町民の声を聞くと、その聞くが聞き流しにならないそういったところで皆さんの声を反映させられるものになっていけばいいんじゃないかなと思っていますので、本日もどうぞよろしく願いいたします。

羽生委員 では、前回の協議事項の確認・報告事項ということです。

渋谷教育次長 本日の欠席職員なんですが、教育総務課参事の犬友、こども家庭課参事の奥山、まちづくり推進課課長の高橋につきましては都合により本日は欠席となっております。以上です。

手島部会長 前回の協議事項の確認ということなんですけども、今日の資料の中にありますこの綴じてある企画財政課長、政策係長宛の文書というのをちょっと見ていただけないでしょうか。「第4回教育文化部会における発言の取り消しについて(要請)」ということで部会長名で文書を出させていただいております。「第4回教育文化部会における発言について、一部に不適切と思われる発言が考えられることから、別紙のとおり発言の取り消しを要請いたします。」ということで、別紙のほうになります。人口ビジョンのところになります。その中を確認をしながら行きたいと思います。全部読み上げますと時間がかかりますので、アンダーラインが引いてあるところ、例えばカッコ1「その時になぜか、住民基本台帳人口が使われて」というところが、後半のところの問題点、4枚目ですか、「(1)なぜか、住民基本台帳人口が使われて」この表現は、住民基本台帳人口を使うことがあたかも間違いのような印象を与え、公正さに欠けていますので、「なぜか」の語を削除していただきたい。という形で連動させていただいております。最後のほうのページですね。最後の3枚になります。後ろから2番目です。希望する修正後の記録というところで、その部分の、その時にの「なぜか」を削除していただいているという形になっています。こちらのほうを提出していただいて、本日まで文書での回答をお願いしますということで先ほどいただきましたので、読み上げさせていただきます。「第

4回教育文化部会における発言の取り消しについて（回答）平成27年10月16日付で要請がありました件について、発言内容に誤りがあったことから、該当部分について発言の取り消しいただきますようよろしくお願いいたします。今後も引き続き部会運営及び調査審議にご尽力いただきますようよろしくお願いいたします。」という回答文をいただきましたので、こちらの文面の中で発言の取り消しということを皆さんで承認していただいて、前回の協議事項の確認の中に入れていただきたいと思っています。

青木委員 これは国勢調査人口に対する認識の誤りを訂正してくださいということですよ。国勢調査人口を使うこと自体は、そこまでは変更は求めていないということですか。

手島部会長 そうですね。ただ住民基本台帳と国勢調査の人口というところでの、あたかも国勢調査の人口だけがデータベースになってしまうような捉われ方がしてしまうので、その辺がたぶん、メリット、デメリットというところの内容はちょっと出ていなかったと思うんですけども。

青木委員 はっきり言って、国勢調査人口を使う、なぜ使うのかという説明になっていなかったと・・・

手島部会長 ただその中で、前回の総合計画を、もしかしたらそれが間違っているんだと捉えられるような発言のあり方じゃないかなと思ひ、ちょっと否定されているようにも聞き取れてしまうので、ここは削除したほうがよろしいんじゃないかと。

青木委員 住民基本台帳はそれはそれでデータとしては信ぴょう性があると・・・

手島部会長 もう一点は、比較するというのは私たち町民が何かを比較するのではなくて、仕事上の比較もしくは個人的に比較をしたいというところに行くのかなと思っています。ですので実際に総合計画の中で国勢調査人口でなければならぬということも出ませんでしたし、どちらという結論には至ってないという内容だったと思いますが、よろしいでしょうか。

（はい、の声あり）

羽生委員 では次に進んでいいでしょうか。
議事録の署名人2名任命ということですが、前は私だったので、長岡委員さんでよろしかったでしょうか。今日の署名人、部会長と長岡さんにしていただいて。

長岡委員 署名だけすればいいんですね。

羽生委員 よろしくお願いいたします。
では議事に入りたいと思います。

手島部会長 資料のほうなんですけれど、先ほどの確認というところでいただきました資料、それからスケジュールのほうなんです、案を削除したのになります。このまま日曜日ごと頑張っていきたいと思ひますが、11月29日というかその前に部会のほうは切り上げてくれという前提スケジュールがあるんですけども、これでも足りないんじゃないかなというのもとても感じています。それから今日の「美里町総合計画の構成について」という横書きの部分こちらのほうに入りたいと思うんですが、これは私が前回のお話しされたところを、内容のほうをですね、大雑把に考えてきたところなんですね。ですのでこの辺に置かせていただきながら、手書きですみません。総合計画と総合戦略と言った

ときに、まずはオモテとしてはもちろん総合計画であり、私たちは総合計画の審議員であるというところで、総合計画を持っていきたいかと思っています。2ページが空白でしたね。3から7ページに関しては、目次のところには各施策、政策施策にページ数が記載、それから住民意向調査につきましては項目を設けページ数も記載する。8ページ9ページに関しては、町長の挨拶だったと思うんですけども、町長挨拶と町民憲章になりますね。という事なので内容はそのまま、町長の挨拶は今から入るのだと思われまます。10ページに関して「はじめに」というところに趣旨を入れる。計画策定の経緯、そこに美里町総合戦略についてというところが分からないと多分このまず総合計画というものが、今回の総合計画が分からないのではないかなというところで、全部説明というものが必要ではないかというところで並び替えということで、「はじめに」の下の概要の前に趣旨があり、計画策定の経緯、総合戦略についてと総合戦略そのものの説明と、美里町としての総合戦略、内容や位置づけというものが入っていくのではないかと思います。この辺については後程またお話をしたいと思しますので。次に11ページ美里町行財政運営の基本理念を削除し美里町総合計画の基本理念とする。行財政運営の基本理念は必要が無いのではないかと思いますので、これが総合計画の基本理念が必要であるということで、基本理念をその場所に入れた方が良いのではないかな。そして及び平成19年度策定の、前期ですね。それを参考に注釈を入れた方が良いのではないかなと思っています。美里町の概要がその下にきて、人口および世帯数、人口の詳細を直近の住民基本台帳からのデータにしてはどうかと。5年前のデータ、5年前のデータを今記載しているというところで、前回やはり住民基本台帳ということで、単年度で入っているデータというところとか、細かい資料でいうところが私たちからすると現実的に見やすい数字かなと思いました。ほかのデータに関しても同じように国勢調査人口となって、2010年、10ページですね。2010年国勢調査結果なんですね。これが多分2015年というのは載るとは、今国勢調査やっているところで、載るとは思われませんのでこの数字が出るのではないかなという考えですね。人口でも2010年の国勢調査の人口を載せるのではなくて、今、本日の多分人口というのは出ますので、その方が住民基本台帳からの人口を入れてもらったほうが、美里町の概要じゃないかなと思いましたが、その辺も当日には出なかったんですけど、これを並び替えとか話をまとめていくといろいろな疑問がまた出てきましたので、そちらのほうも必要ではないかと思っていました。ほかのデータに関しても、2010年とか2012年の耕地面積とかでよろしいのかというところも検証しなくてはならないのではないかなと思いましたが。次に美里町の主要課題、すいません、人口対策、医療福祉、子育て福祉、子育て教育、産業振興、雇用対策というふうに書いたんですけど、たぶん教育、学校教育と話も出たような気もしたのですが、すいません、ちょっと頭の中でいろいろと、後からくる政策とか章別のところにリンクしなければならぬかなと思っていたので、それで人口対策、人口を一番上にビジョンというか持っていくという事だったので、やっていったのですが、後半になるにつれ、それもいかなものかなというのがだんだんと出てきましたので、今日ちょっとそれも議題にさせていただきたいと思っていました。流させていただきます。12ページの計画の位置付けこれも削除し、これは主旨の中に入れていいのではないかな。計画策定の経緯を削除してこれも「はじめに」のところに記載する。最初のところに計画の策定、これですね、「はじめに」のところに入れていけば、この辺の課題は解決するのではないかな。計画の期間に関しては、20ページの計画のステップのありますよね。「将来像2040の達成に向けて」というところの内容を足しまして、住民に分かりやすく説明をしていただければと思いました。というところで、ここがいろいろ削除したり並び替えをしていくと、「はじめに」のところで趣旨、計画策定の経緯、美里町総合戦略についてが入り、基本構想の中に美里町の将来像があって注釈があり、将来像達成に向けてが入ったあとに人口ビジョンという形になるかと思っています。計画の進捗管理というところを削除し計画の進行管理とする。これは前の総合計画に合わせてそれに準じながら、進捗というのはやっぱり範囲が決まっています、どのくらいまでその計画が進んでいったかということを表すと思いますので、また違うのではないかなと思っていましたので戻した方が良いのではないかなと思います。計画の推進というところなんですけど、これは文言を分かりやすくするというのは、誰が何の組織内の連携を

というところがあるので、この辺もちょっと文章のほうは検討したほうが良いのではないかと考えていました。人口ビジョンに入ります。人口ビジョンとしては、まずは美里町の人口ビジョンを入れること。統計表だけではなく注釈を入れ、また住民基本台帳をもとにしたデータを記載するということが、町民に分かりやすい人口ビジョンというものを美里町の人口ビジョンが入って来ると良いのではないかと考えました。基本構想の中に入り、将来像があり将来像の達成に向けてというところがあるんですけども、まずは将来像を訂正し学校教育を含むすべての住民に向けたものとする。そして将来像についての注釈を入れていただければ良いのではないかと考えます。そこで、前回だと「人つどい、共に築く、幸せと豊かさ実感できる町」というのが前回の将来像になっています。今新たにというところでは、非常にそこまで策定員会ではないんですが審議の中で考えるのは非常に難しいということと、やはりこちらの方向性で今まで来ていて、この駆け足の中で新たな物ということも難しいと思いますし、またこの「幸せと豊かさの実感」というところでは、これは本当に一生涯ではないかと思われまので、これに仮定として、仮定というのは仮として、これに向かうという形で総合計画を考えていくのであれば、これを柱にしようとして今から中の政策施策というものは検討はできると考えます。柱が無いとどうしても中身が揺らいでいって、何のためにやっていくのか全部崩れていきそうでしたので、前回の良いのではないかとこの仮定のもとに政策施策というのを考えて行った方が非常に総合計画を考える上では楽ではないかと思われました。それでちょっとその辺も検討したほうが良いと思ひまして入れました。将来像2040、20ページですね。達成に向けてというところですが、まずは文言分かりやすくしていただいて、美里町の主要課題と項目を合わせる。この間の質問の中で「稼げるまちの実現」というのは、産業振興、雇用対策の事であるという前のとこ、連動しているみたいな形でしたが、これも分かりませんので、これも主要課題と項目を合わせて行った方が良いのではないかと。そして同じ文言を使ったほうが皆さん分かると思うので、ここで急に稼げるまちと言われても、それが何を意図しているかが分からないので、何に対しての事なのかというのが分かるようにこもしていかなければならないのではないかと考えます。次に取り組みの方向性というところですが、ここが「将来像2040の達成に向けて」の記載順に並び替えるということで、内容のまだ審議というか入っていませんけれども、並び替えをして、例えば1番から5番に対しての取り組みの方向性が1番から5番までであるという形が、やはり見やすいのではないかとこのことを踏まえてこの順番ではどうかと。その下に立体的図解、住民がイメージしやすくなるために立体的な図解を入れていただければ良いのではないかとこのところでした。そして、土地利用抜けましたね、この文章の中に。土地利用もその前に入りますね。こちらのほうが記載を今考えているという事だったので、入るのか入らないのか分かりませんが、土地利用というのが入るかもしれないというところですね。そこは審議ができないところだと思っています。そこから基本計画に入り、その中に先ほど削除していた基本計画の体系ですね。こちらでいうと13ページのものが基本計画のほうに来ていただけると分かるのではないかと考えます。ここで将来像に向かった計画の体系というものが将来像の理解した後にはでよるしいのではないかとこのところと、それに合わせて重点プロジェクトの解説と重点プロジェクト関連施策体系という表がありますよね。こちらのほうも全部関連しているのもう少し圧縮かけていいのではないかなと思っています。特に重点プロジェクトに関しては、やっていくと例えば重点プロジェクトの1、2、3あるんですけども、今後の展開及び3番今後の展開4番関連施策で5番の施策の指標もちろんでないと思います。これに対して、出てない空欄のところですね。これに対してこれは中の施策からの抜粋でしかないのもっと簡単にできるのではないかなと。このページが無くてもいいのではないかなと思ひました。そして住民に分かりやすく何の施策に重点を置くかが分かればいいのではないかと考えます。なおかつ今度は私達が中をやっていくにあたって、この政策や施策の中に何の重点プロジェクトのためのものなのか分かるような記載を逆に後半に入れていただいた方が進めやすいのではないかと。例えば私たちのほうだと施策の2の読書普及による知識の向上というのが子育て教育プロジェクトになっています。それがこちらを読んでいったときにはそれはちょっと分からないんですね。この33ページ以後今から入るところに。入った時

に分らないのでこちらの中でも重点プロジェクトの一つだよというのは、読んでいって分かればいいのではないかと思いました。以上が並び替えをした、勝手に考えまして前回の意見を集めたつもりなんですけれども、やっていくうちに大変先ほど何回か言いました引っ掛かりがありまして、まずは総合計画の中に総合戦略を入れると言った場合、総合戦略が何か分からなければならないという事です。ましてや総合戦略だけではなく人口ビジョンに関しても私たちは理解をしていなければ進められないんじゃないでしょうかという大きなところですね。先週2回ほど加美町に行くことがありまして、加美町のほうでも総合戦略ができています。この中でこちらのほうが加美町の総合戦略の概要と、これですねこちらになります。この戦略の、最初に渡せばよかったですね。足りないかもしれません。こういった形で総合戦略が含むという事は、これらを含んだものを考えながら総合計画になっていくのかなというところで、ここまで総合計画の中で考えていかなければならないのかと。含むという事はこれも総合計画の1つという事で理解していなければ進められないんじゃないかと思いました。これは例というか事例という形で見ていただければよろしいんですけども、これが美里町に置き換えたときにどんな形があるのかなというふうになっていくと思います。その中で人口ビジョンなんですけども、これは加美町の人口ビジョンになります。こういった形で企画財政課のほうで作っていますという発言があったので、今取りかかっているのかもしれませんが、これがもし含まれるのであれば、これらがあって総合計画なのかと思います。その辺も非常に難しいのではないかと感じていました。一緒にやると言いながら一緒にこれは本当にできるものなのかというところですね。これがそして人口ビジョンの策定のための手引という事で内閣府地方創生推進室からこちらのほうに従って作られているのかと思います。これに伴って例えば青森市、青森のむつ市ですね。ちょっと参考までに出したんですけども、これを参考にやっていますよというところで、こういったものが人口ビジョンが出てきます。これがたぶん美里町の人口ビジョンが入ってきて、この概要版みたいなのがここに1枚入るような形が実際総合戦略が含みますよと言った場合はそうなるのではないかと思います。ですので、まずそこから本当に総合戦略を含んで総合計画が成り立つのか。まずオモテからは同じだし総合計画でいいかなといったところまでいったものの、入れるとなったらこれをやらなければならないと感じていますが、そこが総合戦略についてという事で、趣旨の下に入れて総合戦略についての説明と美里町として総合戦略の説明は入れると言いましたが、これだけのものを入れて。これだけでも多分、他ではやはり総合戦略のための審議会、別ですね。に行われていききちんとそういった検討がされていると思います。それを含むとなると総合計画はいつできるのやらという感じもしながら思っています。例えばですね、この総合戦略を外して考えた場合は、総合計画だけで従来の総合計画で考えて行った場合には問題は無いと思います。今回新しくすると言ったのはこれを含むという意味だと思っんですけども、含むと言った場合には本当に大変なことだと思いますし、部会ではなくて本会議の中できちんとこれを終わらせてもらってからではないかなと思ってました。総合戦略と総合計画が分からなくなってしまう。そのために産業が発展し人が集うという総合戦略のためのビジョンに近いものが総合計画のビジョン、すいません、将来像に出てきたのではないかとされるんですけども、そこを分離して考えないと進められないのではないかと感じて、今回中身というよりもまだ概要で、構成とか概要で申し訳ないんですけども、そこもやらなければ進めないのではないかと感じていました。また項目を合わせると言ったときに柱を四本にするとか、人口ビジョンにいったときに、人口ビジョンもってきますよと言ったときに、それを柱に、柱というか上に持ってくるのは非常に難しいと思うんですね。人口ビジョンは別にしないと大変なのではないかなと。人口、子育て教育のところに入れた場合、これが要は頭に入っていないと人口というところが語れなくなってきました。人口ビジョンにいったときに。なので柱を四つにしますと言ったんですけども、人口ビジョンは別ではないかなというところと、そしてやはりこの施策のほうをやっていた場合に、5章に分かれている、やはり5本の柱というものがあって、もともとある政策体系というところのほうで、やはりすんなり行く。そうなるが一番初めから考え直さなければならないと思うし、他の部会でどう動いているのか分からないんですけども、柱が変わるという事は、すべてに影響してくると思うん

ですね。なので全体会を開かないと私はなんかこう、うまく進まないのではないかと思いつつ、こちらのほうで勝手に柱を、いろんな意見があったら吸い上げますと言いますが、柱が変わったのを吸い上げられたら他の部会が困るし、私たちは柱を変えたものとして今から審議していった場合に、今度他の部会とのズレが生じると思うんですね。その辺もたぶんどういうふうで考えているのかなと、これをまとめていったらそこにちょっと突き当たりまして、今日はちょっとそこを解決できたらいいかなあと思ひましてよろしくお願ひします。ちょっと長くなりました。まず一番大きな総合戦略を含むというところを話の中では説明をして入れますと言ったんですけどもいかがかなと思ひます。例えば、今町のほうで総合計画があります。こちらの内容はこういった内容で町でやりますからというのがあって、これを組み込みますと言った場合には、あそうですかと。総合戦略があり人口ビジョンがもう出てます。ちきんと。それでこういったものを入れますよと言われたものが入っているのであれば、たぶん大丈夫だとは思ひますけれども。総合戦略と拾った場合にこういった、これを、が全てではないんですけども参考までに。またこれぐらいの策定のための手引に沿っていかなければ、予算も付くか付かないかということではないのかと思ひています。報道なんかでも、ちゃんと見ますよ審議しますよという形をしてとっていますので、美里町で今の状態の総合計画案で総合戦略も含まれますよといったものでは、今度は総合戦略としては弱いものではないかなというも並び替え、総合戦略だと思ひるのはたぶんその重点プロジェクトだと思ひられるんですけども、それが施策の吸い上げだけになっているので、見ていけないものになるんじゃないかと思ひました。その両方の点からどうしたらよいものかと迷ったまま今日来ています。

青木委員 総合戦略というのは加美町の例でいくと、例えば総合計画が加美町の総合計画があって、それを具体化したのがこの総合戦略になるのか、それとも位置づけ自体が違うのか。

手島部会長 違いますね。目的が違うので。

青木委員 総合計画と総合戦略の違うものになっちゃってるということですか。

手島部会長 最初から違いますね。一般に言われる総合計画は各地方公共団体の振興発展などを目的としたものであり、まち・ひと・しごと創生総合戦略、地方創生と言われる地方版総合戦略に関しては人口減少克服、地方創生を目的としているということです。なのでこちらを狭い目的というか、そちらのほうと地方創生といった意味では共有の意味があると思ひますけれども、ただ目的としてはそちらですね。なので人口問題、子育て問題と産業発展というところに重点を置いているという国策のひとつということになると思ひます。総合計画に関しては、お金があってもなくても私たちの町をどうしていきたいかというのが総合計画だと思ひますので、戦略は手段の一つではないかと。ただその手段の一つが重いので、なんとか計画という一つではないですねこれに関しては、です。なのでこの辺をちょっとどう捉えて、私たちからはどういったアプローチをしたらいいかと思ひているのですが。

青木委員 総合戦略の条文ですか、地方創生法のものを見ると、最終的には町をどう発展させていくかというのが、この地方創生法の総合戦略にのるものだっていう説明だったので、最終的な目的は結局このまちをどうしていくのというところにぶつかるものなんじゃないかなと、私は理解していたんですけども。

手島部会長 ただ、全体的な町をどうするというものと、これは一つのその手段の一つだと思ひますね。そこで一番私たちが関わりあえるのが、だから学校教育はどこに入っているんだという感じで、分野でいった場合にすぐに引っ掛かってきます。だからイコールではなくて、もっと総合計画のほうは含みが大きいと思ひます。人が一生生きていくという中での人と美里町の関わり合いというところだと思ひま

す。ただ、そこの中の1つとして地方の活性化としてこういった手段があるという、お金が付くよところではないかと思うんですが、この地方創生法ですね、まち・ひと・しごと創生法というところも、これはこの中の範囲の中での総合的かつ計画的だと思うんですね。これをやるにあたって広く捉えなさいよという意味で私はちょっと捉えたんですけども、その各個人的な捉え方のズレがちょっと生じているのかなと思うんですが。だからこれがイコールだよっていうのは、どうしてもそこはちょっと納得がいかないところでした。

青木委員 これ見ると、経済、医療福祉、子育て教育というのが総合戦略に全部入ってますよね。これは全てを含んでいるものに加美町でもなっているのかなと思われるんですけど。

手島部会長 全てではないですね。その中で重点項目というか、たぶん町全体でいったらこれだけではないと。といったところがあります。

青木委員 例えば5つの柱を立てたときに、その5つは全て総合戦略にぶつけることはできるんですよね。分野として、これはだめだよというのは無いわけですよね。

手島部会長 例えばこれが総合戦略の会議で、総合戦略をやりますよと言った場合には良いと思います。ただこれが、総合計画の審議になっていくので総合戦略は一つ的手段として捉えた方がいいかなと。手段というか、もちろん含むんですけども、これ別に動かないと、動いてもらったほうが良いんじゃないかなと思っています。審議の中にこれが入っているという事がまず・・

青木委員 この中にですね。ここまでは求められても困るよというところですね。結局この具体的に何をするという戦略までは、とてもここではできないよということですよね。それは確かにそうですね。

佐々木委員 もう一つ。加美町のこの総合計画という資料は今持っていますか。

手島部会長 加美町の総合計画は今は・・

佐々木委員 それと照らし合わせてみて・・

手島部会長 今、まだ決定してないはずですね。審議中じゃないんでしょうか加美町は。違いますかね。

青木委員 これは逆に確定・・

手島部会長 これはもう決定して出ますね。こういったところはもう出ているところはもう結構出ているですね。ネットの中でももう出ているところはあります。

青木委員 総合計画という大枠があって、その町を良くするための計画の中から、これはじゃあ具体的にこうしていきましょうというのが総合戦略なのかなっていう感覚がどうしてもあって、そうすると総合計画が決まっていけないのに、総合戦略が先に発車しちゃってるというのも、よく分からないというか、なぜっていう疑問点が逆に私は出ちゃうんですけど。そこは完全にリンクしていないとちょっとおかしいんじゃないかというのは、なんとなく感じます。

佐々木委員 私もそうですね。

- 手島部会長 一番初めに、だからなぜ二枚看板なんですかというところでスタートさせていただいたまま、まだここの総合戦略についての説明が一切なかったがために、なおさらのこと進めないでいたんではないかと思います。じゃあ含んでもいいのかなと納得しかかったんですけども、納得できないですね。
- 佐々木委員 これを見せられると、なんだか分からなくなるんですね。総合計画が、さっきもう一つあって、じゃあこれと、この前は企画財政課のほうで説明あったようにほぼイコールなんだと。総合計画と総合戦略がほぼイコールなんだっていうことは最初に説明を受けたよね。だから、その場合にこの資料の例として、加美町のもう一つの今までの総合計画は、あるいは途中までのものは、これと照らし合わせたときに、ほぼイコールなのか全く別物なのかというようなことが確認したいなど。
- 手島部会長 総合計画のいたるところに、これは入ってきてると思います。ただし全てではないと思います。総合計画のほうが大ぶん広いと思います。なので、違ったものではないのは確かです。もちろん町の方向性と違うのではないのだけれども、そして一つのブロックではないということも確かです。いろいろなところの施策とリンクしていて、これも入っているというのも分かるんですけども、ただこれを今この中で考えていくのは無理があるんじゃないかと。
- 手島部会長 ほぼイコールではないという事ですね。
- 青木委員 要はこれを方向性として総合計画があって、それをより詳しくこういう具体策を取っていくっていうのを、別に総合戦略として作らなければいけないんじゃないかということですね。
- 手島部会長 例えばこの中の町の方向性の1つとして、総合戦略というものを掲げてますよというのは良いと思います。
- 青木委員 方向性としてはという事ですね。
- 手島部会長 予算が付くか付かないかというのも今からの審議ですよ。本当に予算を取っていくのであれば、もっとしっかりしたものを提示してもらわないと、総合戦略を含みますよと言っても私たちも困惑しますよね。というところでこの中でいくと、もしこれが総合戦略を目的に考えた重点プロジェクトというところであるならば、こちら理由、基本目標の1、2、3というところにリンクさせているのかなというのであれば、ちょっと薄い、薄いというか抜粋だけになってしまっているので強さが出ないかなと思いますね。
- 青木委員 戦略としては弱いということですね。
- 羽生委員 他の町と見比べたときにお金出すほうとしてみたら・・・
- 青木委員 実際に何をやるんだという話になるわけですよ。
- 羽生委員 それを見せられてこっち見せて同じ総合戦略ですと言われると、こっちにお金出してしまうんじゃない・・・
- 手島部会長 その辺の総合戦略を見越した内容でのスタートだったのかもしれないんですけども、やはりもとの総合計画で考えていくと、この5回も会議をやっているところの引っ掛かりもあるというのも、やっぱりここにあると思っています。なかなか中身に行けないというのが、施策の1からボリューム

がすごくあるんですけども、部会としてどのようにしたらいいか、どう考えて取り組んだらいいかというところですね。

青木委員 同年度でやるわけですよね、ダブル看板でやるということは、28年度から5年間ということ。

手島部会長 ただし、先ほど言った総合計画というのは、町の未来を物語っていくものですよね。なのでこれに関しては期日があるようでない。年度が替わるのは日付が変わるだけであって、それに合わせて無理やり作っていくのではないかなと。住民の声を反映して、しっかりとしたもの、皆さんの声を本当に含んでいるかどうかというところが大きいのではないかと考えています。逆に総合戦略に関しては期日が決まっています、ここまでにきちんとしたものを提出しなければ予算が付きませんよというのが明らかになっているので、これに関しては淡々とこなしていかなければならないものじゃないかと。

青木委員 27年度から31年度の5年間ですよね、総合戦略のほうは。指定されているんですかね。

佐々木委員 27から出した場合は5年間と。

青木委員 美里町がもし28年からだったらその5年間と。

佐々木委員 28からスタート・・・

青木委員 であれば総合計画をきちんと決めて、その後に総合戦略の審議会を立ち上げて、これを具体化した総合戦略を作って出すというのが本来の流れということですよね。これが決まらないことには具体的な戦略はできないですね。

手島部会長 こちらが最初に多分イコールだという事から始まってしまっているのが、多分すごく難しいスタートになってしまったんじゃないかと思うんですが。

青木委員 あれもこれもという感じで。

佐々木委員 ほぼイコールという・・・

青木委員 目的が最終目的は一緒だけどということですね。

手島部会長 町を良くしていこうと思っているところはいいと思うんですけども、ただ非常に施策に入りやすい、中に張っていくのが非常に難しいかなと思ってますね。

青木委員 総合戦略までは意識しないで中身を審議していったいいのではないかと思いますね。

手島部会長 だとスムーズだと思います。

青木委員 全体会で総合戦略は総合戦略で審議会を立ち上げればいいんじゃないですかと。

羽生委員 部会としてお話しを出せば、向こうとしてはそれはそれでという事ですね。

- 手島部会長 総合戦略はたぶんお金を取りに行きたいがために、たぶん12月の議会を通そうということで、たぶん今の日程ではないのかなと思ってはいるんですけども。
- 羽生委員 それに計画も合わせろっていうお話なんですね。
- 手島部会長 2か月寝ないで過ごすとは体壊すので皆さん。
- 羽生委員 他にお仕事もありますのでね。これだけではないので。
- 手島部会長 ですので、総合戦略というのはちょっと、では今、この中では方向性としては考えないで、もともとの総合計画こちらの柱からいくと非常に考えやすいと思っています。ではこちらのほう何らかの文章または形を取りたいと思いますので。
- 羽生委員 部会としては別として考えますと。
- 手島部会長 はい。ですのでたぶんこれが全大会の中でここまでの審議があればよかった所だと思うんですけども。そして次回が11月1日という事で非常に間があるので、そこもちょっとなかなか大変かなと思いました。ということで私たちの部会のほうでは、総合計画というもともとの考え方で進めさせていただきたいと思います。そうなりますと、柱の問題と将来像の問題というところに次にあたってくるかと思っています。将来像は何名かの委員さんから言われている前回のではどうなんだという、そちらのほうがじっくりくるのではないかというお話もあり、そうですね。そのままでねダメなのかなというのを私たちのほうでは提唱してはいかがかなと思うんですけども、10年経って幸せと豊かさを実感したのもういいですということはないと思うんですね。マズローの欲求5段階説ではないんですけども、もっと上もっと上の幸せ、もっと上の豊かさという段階には映るとは思うんですけども、その辺の指標とか評価というところもないので、そのままの継続でも問題は無いんじゃないかなと思っています。
- 羽生委員 2040年に向けてのところを見る限りでは、こちらに該当しないとは思わないので・・・
- 手島部会長 もしそれ使うときには総合戦略・・・
- 羽生委員 せっかく作ってもらったので、こっちじゃなくこっちに。私はそれでいいと思います。
- 青木委員 これは要するに2040年までということなんですよ。その長いスパンでこれを使うということになってくるという訳ですよ。2040年に向けてはという話なんですよ。25年あるわけですからね。25年間産業やるというのも・・・
- 手島部会長 学校教育や家庭教育、社会教育のところだと、やっぱり幸せと豊かさ、例えば今回図書といったときに、心の豊かさだったりといったところはやっぱりいきやすいところなんですよ。目的とか目標といったところで考えやすいかとは思うんですね。
- 羽生委員 他の部会にあてはめたときに、これで困る部会は無いですかね。
- 手島部会長 そうですね。改訂版のところでは、美里町というところが確が入ってなかったと思います。そこにいくと、やはり柱は5章からなるというところでの、5本の柱があるという事で計画の体系ともリン

クするので、人口ビジョンを掲げると言ったのでなんかあれだったんですけど、この章に合わせていくことによって、やっぱりそれが柱ではないのかなというところに戻る、戻るといふかそのほうが考えやすい。それで人口ビジョンはやはり別にしっかりと詳細を入れながら美里町の人口ビジョンをもっていくようにやったほうがいいのではないかなと。その人口問題があるからそうやっていうふうに、堂々巡りにはなると思うんですけども、その中でもやっぱり人口というのを頭に入れながらの、人口が一つの柱になっていたので、産業振興、雇用対策、子育て教育と・・・

青木委員 人口は多分結果ですよ。人口は目指すものなんだけどそれを目的にするわけじゃなくて、この5つの柱を伸ばすことを目的にやっていった結果、人口が減少しないもしくは増えるといったところなので。

佐々木委員 人口だけが目標ではないよね。そこは考えて行かないと。

青木委員 人口は結果についてくると思うので。

佐々木委員 他の柱と同じように、他の柱と繋がって関連させて出てくるというふうにして私たちはこう考えればいいかなと思います。

手島部会長 そうするとこの5本の柱のほうがすごく分かりやすいと思います。今柱が3つに主要課題のところまで3つになっている部分をこの間4つと言ったんですけども、元々の5本の柱にしてもらって、やはりそれが将来像を支えていてその中に施策があるという単純な考え方のほうがすっきりするのではないかと思います。ですので産み育てとか稼げるまちとか人が集まるまちの実現といった項目のところが大分変わってくると思いますが、柱が変わるとこの辺が全部変わっていくと思いますので。取り組みの方向性では5つになってますよね。こちらが多分元々の柱だと思うので、逆から言うと22ページの方向性を柱にしていった前のほうを吸い上げた形の、このまま柱にしてしまえばいいだけだと思います。これも実は今ある総合計画案としては、前のところに合わせるといったところでは大きなまた違いが出てきてしまうので、ただ将来像を変えて柱を変えなければ、たぶん私たちの部会では話ができないかなと。どうでしょう5本の柱にしていくというか、そういう考え方に戻る、前期の総合計画に沿った形・・・。第5章までの章は平成19年改訂版、現行の案とも同じですのでこちらの柱からの・・・

佐々木委員 これと同じだよ。

手島部会長 改訂版・・・

青木委員 同じですね。

佐々木委員 それで、この美里町総合計画案の中で21ページと22ページ23ページで柱をどうするかということで、例えば21ページがそのカッコ1カッコ2カッコ3が3つの柱というふうにして出てきたわけですけども、それとこの具体的なのが進めるとすれば22、23の関わりはどうなんだということ、これまで疑問視してきたのね。それで1番関連したのが3番、21ページの3番の「産み育てやすいまちの実現」で、これはおそらく22ページのカッコ2の「健やかで安心なまちづくり」と関係はできるだろうと。ただカッコ1の「生涯を通して学び楽しむまちづくり」というのは21ページの柱とどういうふうにして連動するんだろうということでは連動しにくいだろうということこれまでの話の1つ。もう一つの柱が必要になるのではないかという事が出てきたのね。もう一つの関係で2

3ページの「自立を目指すまちづくり」これは21ページでいうとカッコ1カッコ2カッコ3のどれに関わってくるんだろうと私は疑問を感じてきたわけです。そうすると、そういうことを考えたときに、柱というのは5本かなと。5本になって来るんじゃないかと。5本だと、なんか前にこの改訂版の10ページに将来像というところで、将来像という項目のところにあるその柱の部分、5つあるんですけども、それがまず5つの柱として私たちはこう考えていく必要があるんじゃないのかなというふうにして考えたわけです。もっと理由づけるとすればですね、総合計画案の目次のほうの4ページから7ページまでの中で、各章というのがありますね。1章が「生涯を通して学び楽しむまちづくり」、2章が「健やかで安心なまちづくり」、3章は「力強い産業がいきづくまちづくり」、4章が「くらしやすさを実感できるまちづくり」、5章は「自立をめざすまちづくり」というふうにして、これを柱として考えた場合にはまったく同じなんだよね。同じだということ考えたときに、この柱を当然活かしてそして目次の中にもそれ含まれていると。それを具体化する政策、施策というものをどうあったら良いのかを論じて行った方がいいんじゃないかと。そうすると柱は5本立てると。目標とするものが、これが大きな目標として妥当かどうかは論議しなければならないけれども、案の中の20ページの産業云々が大きな町としての目標となるだろうと。第1章は教育の部面からそれをどういう形でここに持っていかと。どういうふうな進め方をするかというのが第1章というふうにして私は捉えておりました。従って従来の改訂版にある5つのところを柱にしたらどうかと。皆さんのご意見を伺いたいと思います。

手島部会長 いかがでしょうか。

青木委員 私は同感です。

手島部会長 5つの柱に戻すというか、今の章に合わせた柱を5本では・・

長岡委員 私も同じような意見なんですけども。まず全般的にあまりにも細かく分けすぎているのではないかと。ページを見ただけで、目次からはじめに、人口ビジョン、基本構想、基本計画そこから具体的な第1章から2章3章と。しかもその第1章が政策1政策2と、その政策1が施策1施策2、また政策2が施策3、4、5とか分かれてますね。これ見ただけで頭痛くなりそうです。しかもこの前も言いましたが、目次の部分にページが無いから、読んでいくとどこだったかなと。結局内容は頭の中に入っていないと。そんな感じはします。もう少し簡略にというか分かりやすくというか、そうできないものかなと思いますけども。以上です。

手島部会長 それは今度中に入ってしまったときにすごく感じます。例えば33ページ、今から始まる施策の1に行ったときに、政策1の社会教育の充実に関しての基本方針としては、「町民一人ひとりが学ぶ喜びと尊さを知り、それぞれのライフサイクルに合った学習活動を自主的に実践する美里町を作ります。」とあって、「住民による主体的な学習の推進と学びのための環境整備」を行いその中の目的として「住民自ら行動できる学習活動をつくります。」というのが目的のところに出ている流れなんです。それを網羅して下の現状と課題、展開というところに入っていくので、すごく前置きが分かっているんで、それらを網羅して一つの目的がやっと出てくると思うんですけども。だからこれは何を言ってるんだろうなというのが読んでいるうちに分からなくなってきますね。例えば上を読まないで現状と課題だけ見たときに、インターネットは学習手段及び云々という内容に入った時に、あれこれは何が目的で何の施策のときの何の政策だったかなと。何のためのものだったかなといったところに戻らなければいけなくなったときに、いっぱい戻んなきゃならないと。これは社会教育の充実のためについていうところと、一人ひとりが学ぶ喜び云々というところを見て、学習の推進と学びのための環境整備を行うために、これがどうすればいいんだろうということなんですよね。すごく難しいですね。

ですので、この細かいなというところは非常に思っていました。

長岡委員 しかし今更という感じもしますから、余計な事ですけどもどんどん急がないと・・・。

手島部会長 そうですね。今大きなところでは、まずは総合戦略については別として考え、5本の柱で進めて行くということが大きいと思います。そうした場合に、やっと「第1章生涯を通して学ぶまちづくり」に入れるのではないかなと思います。

渋谷教育次長 部会長、いいですか。

手島部会長 はい。

渋谷教育次長 これは5つの部会共通の問題ですけども、これを審議するのは当然全体会になると思うんですけども、部会の意見を反映させるためには当然全体会を開催してもらわなければならないと思いますが、全体会は11月ということなので、このままでいけば当然審議期間終了してしまいますよね。その辺はどのように考えていますか。

手島部会長 すぐにでも全体会を実は開いていただきたい。または文書でいいのであれば、全体的に各部会に私たちの部会ではこう考えているという事を、本当はそれを全体会のほうで吸い上げると言っているんだけども間があるので、その時間は惜しいので各部会のほうに私たちのほうではこういった方法で考え、こういった形で審議を進めますということを表したいとは思いますが。

渋谷教育次長 基本的な問題ですからね。当然総合計画についてはスタートしていますので、それが元に戻るといいう形になりますよね、総合戦略は別という事で考えているようですから。

手島部会長 すごく大きな問題なので。

渋谷教育次長 そうですね、スタートに戻りますので。その辺は早急にやはり全体会を開いてもらいながら、部会としてもその辺の考えを・・・

手島部会長 それを要求することはできるんですか、全体会をすぐ開いてほしいという事を。

渋谷教育次長 当然お話はできると思うんですが、ただ部会がもう終了しているところもあるんです。終わっているとこあるんです。ですから、また元に戻すという形になるので。

青木委員 思うんですけど、総合計画として我々は作ると。役場がそれを総合戦略として国に出すのかどうなんだっていう判断は役場の判断になると思うので。国がどこまで求めているか我々は分からないので総合戦略は別に作ってくださいということは別に要求する必要はないと思うし、あくまで我々は教育文化部会で教育部門でどういう方向性で町を良くしていくのかという審議に徹すればいいのかなと思うんですけど。要はタイトルを外す外さないっていう事は大きな問題になってくるとは思うんですけど。

渋谷教育次長 その辺ちょっと部会の中で確認していただければと思います。

長岡委員 余計な事を言った感じがしますがですけども、最初に読んでみた直感的なことを喋ったんですけども、も

っと簡単に簡略にということは、例えばこの中で一番困る部分は施策の部分ですか、これを全部なくして政策をもう少し数を増やすなりしてまとめたらどうかと。しかしそんな事をいまさらしたら、すべての内容はあまりにも簡略化あるいはおおまかになってしまうんじゃないかと思うんです。だからそこまでは希望しませんけども、全体的に細々しすぎる感じがするんです。以上です。

手島部会長　　そうですね。あとは一番初めに羽生委員さんからお話があった何と何が連動しているのか番号を振ってはという話もあったんですけど、見にくさ分かりづらさがあるためにすごく、細かくても分かりやすいというのはありますね。例えばどんなに細かくても、これがこういうふうに繋がっているんだという目に見える形というのはたぶんあるかなと思いますので。そちらのほうは今回たぶん先ほど長岡委員さんがお話ししたように、全体的に今この政策、施策というところをもう少しおおまかにすることは難しかもしれませんが、分かりやすくというところでは努力していただければいいのかなとは感じます。

青木委員　　総合戦略の期限というのは、いつまでに仕上げなくてはいけないんですかね。

手島部会長　　提出期限は分からないですけども。

青木委員　　総合計画は28年度からスタートという事なので急いでということは分かるんですけど。

手島部会長　　いつというのは分からないですけども、28年度から動きたいという場合には、たぶん年度内という事なんでしょうから。

渋谷教育次長　　地方版総合戦略については2015年から2019年の5か年ですね。

青木委員　　もうスタートしているという事ですね。

渋谷教育次長　　ですから加美町はもう27年度から・・・

佐々木委員　　ここで休憩しますか。

手島部会長　　はい、分かりました。では10分くらい休憩を入れたいと思います。よろしくお願いします。

～休憩（午前10時16分）～

～再開（午前10時26分）～

手島部会長　　では再開したいと思います
発言に訂正があった場合には、文書という事で発言の取り消しを行いながら、皆さんで充実した会議になると思いますのでお願いします。
では続いていきたいと思います。
では5本の柱に向かってというところで考えながら政策、施策のほうに入っていきたいと思います。大まかな方向性としては大丈夫でしょうか。先ほどのお話のとおり、今言った5本の柱で考えていった場合に、表紙から30ページまではかなり変わる形にはなると思います。ただ方向性としては先ほど終わっている部会もあるとお話があったんですけども、どの部会でもたぶん美里町を良くしようというもとに部会の中でお話をされているので、そちらのほうで間違いはないし、オモテが変わった

としても柱に、それぞれの柱に向かっていることは確かだと思いますので、表紙に関してそこが大きくもかしたら変わるのかどうなのかということが、今度の全体会での審議になると思いますので、それでは私たちの、やっとなります。「第1章生涯を通して学ぶまちづくり」31ページに入りたいと思います。

渋谷教育次長 部会長よろしいですか。

手島部会長 はい。

渋谷教育次長 社会教育につきましては、補助進行という形でまちづくり推進課のほうにお願いしておりますので、本日まちづくり推進課長が欠席しておりますので、今日は教育委員会で実施している事業についてご審議をお願いしたいと思います。ですので、生涯学習と体育の部分ですね、こちらはまちづくり推進課長がいるときに審議をお願いしたいと思います。

手島部会長 今入りますと言ったんですけれども、議事のカッコ2他の部会への意見シートの確認というのを入っていました。申し訳ありません。今入ろうと思って勇んでしまいましたが、他の部会への意見シートというものが前回3枚ほどいただいておりますので、こちらのほうを確認して、こちらのほうはこの施策というところを確認して、そこに合わせて審議したいと思っています。それでは提出者は小野さん、総務行政部会というところで施策の10です。53ページから54ページ。こちらのほうに関して意見が出されています。「1. スポーツ普及員(行政区1名)は、ほとんどの区で、町のグラウンドゴルフ大会の審判のみに活動しているだけなので、一同に会した講習会等を活用し、地域にかえり、年に1度でもいいのでリーダー的存在になり、スポーツの推進に寄与してほしい。」「2. 素山球場 高校野球のできる球場に改装すべきだ。」「3. 高年齢層はグラウンドゴルフやパーク、個々に団体に所属し、活動しているが、大会が欲しい。(例:70歳以上卓球大会とか・・・)」という意見が出されております。こちらのほうは施策10に入りましたら一緒にこちらの意見も踏まえて考えていきたいと思っております。もう一つ多田さん保健医療福祉部会からです。「インターネットは、本当に便利なものでしょうか。私たちには、声があり、体があり、心があります。物や道具に頼らなくても私達は生きていけます。何か調べたいことがあったら、直接その場に行く様な前向き気持ちが大切です。インターネットは、体に悪い物です。IT企業に勤めている者は、精子の数が減っている事が深刻な現状だからです。それは、新たな尊い命につながります。新たな命の為に前向きに生きていく事が大切です。インターネットは、本当に必要な物ですか。」これは施策の1のところでしょうか。現状と課題の初めの部分と、施策の展開の2つ目ですかね。インターネットを利用することのできない方に対し、個別の相談云々というところですかね。これに関わってくるところとして、これは本当に必要なのかということからの、こういった学習支援活動イコール必要なのかという捉え方でいいんでしょうかね。といところで、こちらのほうはすぐに審議に入らなくてはいけないと思っておりますのでよろしくをお願いします。3枚目、すいません私が出しました。全部会のほうになんですけれども、審議開催期間中という事で随時受けてほしいと。自分の部会のところだけでいっぱい、他の部会が気になっているところはあるんですけれども、なかなか意見を出すところまでいっていないので、期間中はいつでも、例えばやはり他のところもリンクしているところが多々あると思っております。子育てのところだったりとか産業もそうですし、スポーツ産業というものもあるので、そういったところでもいろいろと関わり、健康といった場合には幅広くリンクしてくると思うので、その場に行ってやっぱり聞きたいということが出てくるんじゃないかということ踏まえて、とにかく意見があったらその都度聞いてほしいというのが私の意見で出させていただきました。ということです。この3枚が私たちのほうの部会には出ていますので、これに対して審議結果をお知らせしなければならないというのがありますのでよろしくをお願いします。どうでしょうか意見のほうを最初に、意見シート2つ・・・

- 青木委員 インターネットは社会教育なので、高橋課長さんがいらっしゃらないので・・
- 渋谷教育次長 そうですね。この部分とスポーツ普及員もまちづくり推進課の所管になりますので。
- 青木委員 高橋課長さんがいらっしゃるときにこれは・・。手島さんの意見シートは。
- 羽生委員 この部会としては受けますということ。
- 手島部会長 受けます。ありがとうございます。他の部会の方が聞いてくれますと言っただけならば、すごく頑張りたいと思います。9日までと言われても出なかったもので出せなかったのも、取り急ぎバックした次第です。
- では議事3「第1章生涯を通して学ぶまちづくり」の基本方針についてというところからいきたいと思っております。今日はこのところで終了になるかと思っております。施策1の住民による自主的な学習・・というところは、次回は高橋課長さんいらっしゃいますか。
- 渋谷教育次長 出席すると思います。今日は行事があって欠席しておりますので。
- 手島部会長 であれば1からスタートして今日のような感じで担当課の方がいらっしゃらない場合は臨機応変に順番を変えながら施策のほうに入っていきたいと思っております。本日はこの基本方針というところをやりたいと思っております。「子どもたちは町の宝です。まちづくりは人づくりです。学校教育と幼児教育に重点を置いたまちづくりに取り組みます。」という論語に対してご意見をいただきたいと思っております。
- 青木委員 学校教育と幼児教育に重点を置いたまちづくりとなっていますけど、教育現場にも携わっている私としては、学校教育と幼児教育だけで人格教育ができるかということ、学校は非常に重要ですし、幼児教育ということで幼稚園や保育所も当然大事なんですけど、一番はわたし家庭教育だと思うんですね。これはあえて踏み込みたいけど踏み込めないのか、踏み込み方が見つからず踏み込んでいないのか、これって多分みんな思っていると思うんですけど、家庭教育に踏み込まずして、学校教育の効果を上げるのは非常に、学校がすごいことをやっても家庭教育がままならない状況では、その効果は半減どころか全部なくなる可能性もあるので、家庭ではああしなさい、こうしなさいではなくて、こういう子育てをするとこういうメリットがありますとか、こういうことはこういうデメリットもありますよと、情報提供とか講演会とかでもいいんですけど、情報を各家庭に頻繁に提供するっていうことだけでも大分違ってくるので、是非家庭教育を入れてほしいなと思っております。これ学校の先生たちが一番思っていることだと思います。
- 手島部会長 世の中のお母さんたちも思っています。お母さんたちというか・・思います。今モニターペアレントとか、いろいろな恐ろしい言葉が世の中を走っていますが、それプラス子供たちの無気力無関心、表情が無くなっていく子供たち、感情が失われている子供たちではやはり家庭教育と言われているところなので、学校でやったからではないんですよね。
- 青木委員 第一の教師は親であるという事を周知してもらったほうが良いんじゃないのかなと思います。もちろん学校教育、幼児教育を高めていくのは大前提なんですけど。
- 佐々木委員 私も家庭教育は重要な項目の話として考えております。それはどういうことかということ、現実を私たちは見ていかなければならない。私は国際交流関係の仕事をやっている中で、外国に間もなく行く

中高生、大人も含めてですが、昨年までの例を言いますと、外国に行くときパスポート持っていきますね。いろいろな物をスーツケースに入れて持っていきます。向こうに行ってパスポートが見つからない人がいたんです。現実に。そして「私のパスポート知らない？」と言うわけね。パスポートの管理っていうのは、命の管理なんだと何回も何回もお話ししながら行って現実はそのような姿。自分のものではないんだという意識があるんですね。自分の持ち物に対しての管理自体が難しいと。例えばホテルの入った時に、スーツケースの中にどういうものが入っているのか分かっていない。着替え、洗面用具等を仕分けするのは自分ではないのです。家庭なんですよ。家庭でやっているから自分が関わっていない。「入れたからね。」と言われてそのまま持ってくる。ですから中に何が入っているのか分からない。

羽生委員 お母さんとかが用意しちゃうと・・・

佐々木委員 お母さんや家の方が多分待たせられてやってしまうと思うんです。それは全てではないんですけども、そういう現実の姿、国内等の治安の良い所であればいいかもしれませんが。今は治安が不安定な状態が世界の国々であるわけです。そういう危機感というか、子供たちにとってすごく重要なことだし、家庭の中でも危機意識とかそういうのも家庭教育の中でも、学校教育でもそんなんだけど、家庭教育の中でも必要になってくると。今年はそれを受けて同じような事が起こると大変だということで、集団訓練、合宿訓練を行いました。花山合宿所で一泊二日です。私たちが泊まって。その中で何が起こったかと言うと、花山合宿所のスケジュールがありますね、朝起きて掃除をして集いの広場に行って集いをやる等、スケジュールを全部頭にインプットされているものだと思いますよね。ところが、朝に「朝ですよ。」と言っても誰も起きてこない。そこから集まるまで30分しかない。起きたらすぐに、次の行動が始まらないとできない。掃除の分担がまだできていないので掃除がスタートしない。するとどうするかというと、やっぱりスケジュールを書いておかなければいけない。朝の集いは私たちのグループだけではないから、みんなが集まる場所にみんなで行って並んで集いが始まります。そうすると、こちらは後からしようと。これが向こうでも、外国に行っても同じような事が起こっているんです。起きてこない。皆が集まっているのに集まってこない。

手島部会長 中高生ですよ。

佐々木委員 中高生です。それが積み重なっている。そういう現実があるんです。そういうのがいずれこうなりますよということを考えると、若いうちからの家庭教育がどうあるべきかということが重要になってくると思います。これが実際に中高生と触れ合っただけでこういう姿がある。もう一つ。中高生の子供たちに私がお話をしますが、ここにいる皆さんはこういう事を話しているんだとだいたいのは掴めますよね。ところが国語が通じないんです。例えば私が言ったとしますね、するとなんとなく音としては流れている。「今私はどんなことを言ったの。」と聞くと、「えっ？」となるんです。これが現実の姿なんですよ。全てではないですよ。それが私たちは危惧しなければならないと。そういったことも活動を通して、家庭教育とはどういう形で浸透させていったらいいのかといったところが必要になってくると思います。そういったことから家庭教育は大事なものであると考えています。

手島部会長 今、貴重な子供たちの現状を教えてくださいました。なおさらのこと、いろいろなところで家庭教育とか、本当に問題が、問題というか、いろいろな事件や事故が低年齢化している中で、ここでいう学校教育と幼児教育というところに狭めたところではないかもしれませんが。家庭教育もそうですし、先ほどの第一の教師は親であるところから、今回実は家庭教育というところが私も施策とかのところでも大きなところが無かったんですけども、非常にここは重要だとは思っています。例えば、教育と言ったとき、医療福祉の中に入っている障害者問題とか、そういったところも分けるのでは

なく、教育といった場合にはすべてに関わってくると思うので、例えば特別支援教育でもそういったところにも触れていかなければならないのではないかと思いますので、もっと大きな基本方針のサブタイトルも入れてもらっても良いかもしれませんね。今のお話ですと学校教育と幼児教育に重点というところではなく、ここは多分子供たちの、子供たちというか、これは改訂版のほうを読ませていただいて良いですか。改訂版の第1章だと、障害を通して学び楽しむまちづくり、「少子化社会を迎えて、児童・生徒の減少が続く本町においては、子どもや若者たちが生き生きとのびのびと育ち、一人ひとりが個性を發揮して活躍できる教育が求められています。将来を担う心豊かな美里人を育むためには、“心の教育”の実践と“基礎的学力向上”への取り組み、良好な環境を維持するための教育施設の再構築は、本町の主要課題の一つです。」という感じで入っているんですけども、そちらのほう第1章として何を入れたら良いか、どのようにしたら良いかを意見をいただけると・・・。

羽生委員

ここでは学校教育や幼児教育というものに固執しないで、子どもの教育とか全体に通じるような言葉にしてしまって、あまり長くするとまた分からなくなるから簡潔にしたらというお話が前回もあったと思うので、全体に関わってこれるような文言とかにはいかがかと思うんですが。

手島部会長

策定時の19年度の時には注釈はありません。ただ中で、いろいろと施策の中の1節2節というところで、家庭教育を向上させる対策というのは取られています。ここで中身に行ってしまうと、それと連動して施策別の総括のところと連動させなければならないと思うんですけども、前文の「子どもたちは町の宝です。まちづくりは人づくりです。」のところは、そのまま。学校教育と幼児教育に重点を置くと言った場合に重点を置いた内容・・・最初の時点だと、柱の中に入っていなかったので、重点項目という中に無かったんですよ。こちらはあまり考えないというところで・・・

青木委員

5本柱の一つの基本方針ということですね。

手島部会長

そうですね、はい。前でいうと「子どもや若者たちが生き生きとのびのびと育ち」とか「一人ひとりが個性を發揮して活躍できる教育」とかっていう、なんでしょう、一つに特化した内容でないほうがいいのかと。もしこの中で、重点を置いたという表現をするので、何に重点を置いているのかという事なんですが、この辺をもし入れ替えるとすれば、どんな生涯教育っていう・・・

青木委員

生涯を通して学ぶまちづくりというのは、子どもも大人もお年寄りも全部という事ですよ。生涯学び続けるという姿勢ですよ。これは今回子供たちに視点を置いた文言になってますかね。「子どもたちは町の宝です。」から始まって。

羽生委員

地域が子供を育てるとか・・・。ということは子供たちに関して強く出しているということなんですよ。

長岡委員

第1章の基本方針のところ、学校教育と幼児教育の他にも子供の教育と入れたいんですね。

青木委員

そうですね家庭教育という項目は。

長岡委員

でしたら、「子どもたちは町の宝です。・・・学校教育と幼児教育はもちろん、すべての子供たちに何々しながらまちづくりに取り組みます。」というような内容になるのでは。学校教育と幼児教育は子供たち、ある年代の子供たちは全部入るわけですよ。だからただ・・・何とか上手い文にならないかな。

- 青木委員 子どもたちに特化するのであれば、「子どもたちは町の宝です。まちづくりは人づくりです。家庭教育・学校教育・幼児教育が密に連携し、豊かな人格の形成と生涯を通して学ぶ姿勢を育みます。」とか、子どもたちが一生学んでいくんだという姿勢を、心の教育人格づくりというのは教育の基本なので、その辺も入れてみても良いのかなと思いますけど。
- 手島部会長 もう一回いいですか、書き留めていなかったの。
- 青木委員 「子どもたちは町の宝です。まちづくりは人づくりです。家庭教育・学校教育・幼児教育が密に連携し、豊かな人格の形成と生涯を通して学ぶ姿勢を育むことに取り組みます。」なのか「・・・育みます。」だとちょっと文章が人格の形成と繋がってこないような気がしますけど。「豊かな人格と生涯を通して学ぶ姿勢を育むことに取り組みます。」ではどうでしょうか。子どもに特化すればですけども。
- 羽生委員 「生涯を通して学ぶまちづくり」の後に「子どもは町の宝です。」と入っているから、子どもが特化されてきてしまっているのかなと思いますが。子どもたちはもちろんですけども、それだけではないということですよ。
- 手島部会長 「まちづくりは人づくりです。」からのスタートでは・・・そこから「生涯を通して学ぶ姿勢を育む」と。「家庭教育、学校教育、幼児教育が密に連携し、豊かな人格の形成と生涯を通して学ぶ姿勢を育むことに取り組みます。」と。「子どもは町の宝です。」があると子供だけかという印象があるので、これを後段に持ってくるか、もしくは・・・。
- 羽生委員 子どものところに係ったときに入れられないのかなと。施策3で子どもたちに関わるようなことを言っているので、ここに入ってはどうなのかなと思うんですが。豊かな教育環境の提供という目的があるので。ここで家庭教育も必要になってくるかなと。
- 佐々木委員 先ほど読んでいただいた、前回の部分で「心豊かな美里人を」をどれに引っかけてくるのかなと。大きな進むべき方向性を決めたときにそれと関連させるような、関わりのある内容のものが教育の中に入ってこないと別な方向に行ってしまう可能性があるように思います。そんなことを考えた時に、先ほどの今回の総合計画の町としての大きな方向性は何であるかという文言との関わりを、生涯学習という中でそれを表現するとき、この言葉にどの部分を引っばってくるかというようなことかなと。作っていただいたものをもう一度見ていただいて、この文言とこちらの文言をどの部分にくっつくかという事を見ておく必要があるかなと思います。
- 手島部会長 前の幸せと豊かさという言葉というのは全てを含んでいるんですよ。この言葉があることによって、教育とか今からやる図書とかの関係なんかは、その豊かさというところがあるのかなと思いますので・・・こっちが決定しないと全部終わってから・・・この幸せと豊かさというところは必要なのでは・・・子どもたちを育てると言ったところで、そこは・・・。図書とか考えた時にも・・・。
- 佐々木委員 いろいろと適用できる文言ですね。
- 手島部会長 前に戻るのがどうしても嫌だとなったら、このキーワード2つだけをどこかに入れて・・・そうすると私たちは人の幸せとか豊かさといったところを担っているような形で進めて行ければ、今のお話の豊かな人格形成というところですべてが関わってくると。では確認します。「まちづくりは人づくりです。家庭教育・学校教育・幼児教育が密に連携し、豊かな人格の形成と生涯を通して学ぶ姿勢を

育みます。」でどうでしょうか。

青木委員 「形成」という言葉を取って「豊かな人格と生涯を通して学ぶ姿勢を育みます。」のほうが良いと思います。

手島部会長 ありがとうございます。次は「生涯学習」「学校教育・幼児教育」「青少年健全育成」「文化振興・文化財保存」「スポーツの振興」とありますが、私は「家庭教育」は大変重要な課題だと思っているのですが、どこに入れていったらいいでしょうか。以前ですと家庭教育は別になっています。

青木委員 政策的に別項目にするのか、それとも学校教育の中の施策にするのか・・・。

手島部会長 家庭教育に関しては、改訂版のときに削除されていますか。一般的に家庭教育というのは、いろいろな場面で出ているのは現実で、そこが変わらなければ問題は減らないと思います。学校、家庭、地域の連携という言葉に入ってしまうか。

羽生委員 その一言で片づけていい問題ではないと思います。

青木委員 別物として扱ったほうが良いとは思いますが。

羽生委員 すごく重要な部分だと思うので・・・。

手島部会長 ちなみに19年のものを読ませていただきます。「家庭の教育力を向上させるための対策として(1)家庭が人間形成に及ぼす影響は極めて重要です。親と子のふれあいの機会や子どもの成長段階に応じた教育や家庭教育学習の機会を充実させ、安心して子育てができるよう学校、地域社会、行政等が連携し家庭教育力の向上を支援していきます。(2)子育てや家庭教育に悩む親を地域の住民で支援する体制を整備するとともに、子育てや家庭教育について気軽に相談できる環境をつくります。具体的な取り組みとして、家庭教育に関する学習機会の提供。子育て支援センター、保育所、幼稚園、学校等における家庭教育学級。家庭教育指導者、ボランティアの養成と子育てサポーターの活動支援。家庭教育の相談体制の充実」というのがまとめられていました。

羽生委員 そのまま復活できないでしょうか。生涯学習でプラットフォームといって学校とか地域と連携してというので進めているものがあるので。

青木委員 こうやってここまで来るのに何ができたのかというところもありますよね。掲げたはいいけど。

羽生委員 子育てに悩んでいるお母さんも多いと思うので、そこはちょっと抜いてはいけないのかなと。

手島部会長 新しい施策として大きくもってくるべきなのか、どこかに入れてしまってその中で検討していった方が良さか。

羽生委員 安全・安心の施策6とか地域が支える学校づくりの施策5に無理やり付けられそうな・・・。

手島部会長 ここに家庭教育という言葉を入れちゃって・・・。

羽生委員 施策8の就学前教育の充実の中とか・・・。

- 手島部会長 就学前だけではなくて、・・・幼い子供たちが多いので、言い切ってしまうといいかは分かりませんが、家庭教育というのはすごく大事ななど。
- 佐々木委員 幼稚園で家庭教育のウエイトはどうなっていますか。どなたでも結構です。
- 園長 家庭教育は大変重要だと思っています。お母さんたちの考え方とかがあって、教育委員会がお話しても伝わらなかったこともありますので、お母さんたちにいろんな形で支援というか一緒に勉強していくということが必要であると思っています。
- 園長 いろいろな機会を与えるというのはすごく大事なだと思います。特に駅東地区はいろいろな町から引っ越してきている方が多いので、この町として子育ての悩みをいろいろな形で解決できる手助けをしていかなければならないというのは大事な部分かなと思っています。幼稚園に入っているお子さんの保護者の方とか小学校の保護者の方とか、いろんな機会を捉えて行政のほうで保護者向けの研修する場を提供するとか、広報活動をするとかそういう事はすごく大事な部分だと思っています。
- 青木委員 この間幼稚園でお母さんたちの交流会を主催してやったんですけども、こういう場合はこうやっているとか、その情報交流を目的にやったんですけども、お母さんたちはすごく情報を欲しているので、大々的にそういう情報は先ほど園長先生がおっしゃっていたように、講習会とかそういう機会を頻繁に設けてほしいと感じました。
- 羽生委員 保護者懇談会とかを授業参観の後にやっても、結局時間内に話は終わらないです。
- 佐々木委員 例えば、幼稚園の場面の中で、行事を通しながら子供のお母さんお父さん、あるいはお爺さんお婆さんたちが来るかもしれませんが、そういう中でいろいろな話題、課題などを話しながら浸透させていくことはできるのだけれども、それをもう少し別の角度から行政的、専門的に入って行ってQ & Aなどを作って、お母さんお父さんたちも勉強する機会も必要だと思うんです。今のお父さんやお母さんは働いている方が多いので、継続していくのは至難の業だと思いますが、幼稚園は幼稚園の場の中でそこに人材を派遣してみんなの輪の中で勉強する。そして子供はこういうふうにして育てるのが望ましいねとか、親自身の子供を育てる考え方や子育ての大きな目標を立てるのも大事なと思います。家庭の中でどうするのか、友達同士ではどうするのかなど社会環境の中で生きていくためにどうすればいいかというのが必要になってくるわけです。そうした中が施策として入ってくれば生き生きとした目標を持った子供が成長すると考えてもいいわけです。
- 手島部会長 今ちょっと見てたんですけども、困っている生涯学習、学校教育、幼児教育とか青少年健全育成というところがあるんですけども、青少年の健全育成は改訂版から注釈され、施策1に取り込まれて一文として残っている形なんですね。ですから家庭教育というのここの特化して書いて、中身を今お話しいただいた形のものを埋めていく形で家庭教育も入れてみてはいかがなものかと。そして各施策の中に織り込んでいく、ちょっと難しいかもしれないんですけども、家庭教育というのが強く出るような、生涯学習の中でも展開でき、幼児教育学校教育の中でも必要なところということではないかなと思ったんですけども。一番初めのところに家庭教育という一つの枠をとって、生涯学習、学校教育、幼児教育の下に家庭教育が入って青少年健全育成、文化振興・文化財保存と。引きこもりもいじめも全て親が・・・この中身に関しては今回宿題にしたいと思いますので、皆さん次回家庭教育の中身を何か文面をいただければと思います。だいたい11時半を目途に今日はやっていましたので、今日は2行クリアしました。これだけ一生懸命真面目に取り組んでいるというところ

を分かっただいて、皆さんの思いを乗せていけたらと思いました。今回10月の広報みさとに入っている優先すべき施策というところも実は加味しながらやっていかなければならないのかなと思っていましたので、ただこれっていうのは今回の案の中の住民意向調査のところには入ってこない文章なんですよ。ですので、この広報の内容とリンクしても良いのではないかと思いつつ、あちこちをだから見ながら、拾っているような形になりますので、一つひとつ検討していくという事になると思いますが、今日もたくさんの意見が出ましたので次回もまたよろしくお願ひしたいと思ひます。では施策の1のほうには入りません。第1章のままです。次回この続きからスタートしてまちづくり推進課長の高橋課長さんがいらっしやった場合には1からスタートしたいと思ひます。あとは臨機応変に中身のほうの検討に入りたいと思ひます。ではその他として何かございせんか。

長岡委員 来週は役場ですか。

羽生委員 25日なので役場ですね。ここが選挙の会場になるので。

渋谷教育次長 場所についてはこの前使った3階の小会議室になります。

手島部会長 ありがとうございます。以上で議事を終了したいと思ひます。大変お疲れ様でした。

審議終了

- 午前11時17分 終了 -

上記会議内容に相違ないことを認め、ここに署名する。

会議録署名委員 教育文化部会 部会長

教育文化部会 委員